



<問い合わせ先> 根室すずらん学園 ☎ 0153-26-2134

1 農福連携に取り組んだ経緯

昭和59年に「精神薄弱者更生施設」として事業開始。養鶏は、利用者の情操教育の一環として動物との触れあいが心身に良い影響を与え、感受性を育むことから、昭和62年に始めた。しいたけ栽培は、利用者に運動をして欲しいという気持ちから、筋力を使う原木栽培を平成元年から始めた。

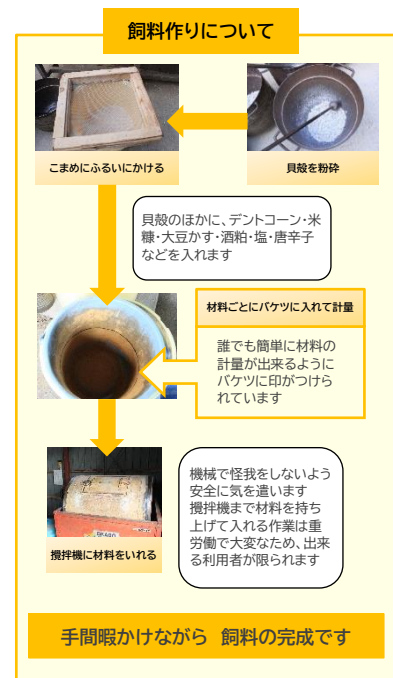
平成21年3月に就労継続支援B型事業に事業移行して現在に至る。

2 取組内容

- (1) 就労形態：就労継続支援B型事業所。根室市内からの送迎、同園で運営しているグループホームや支援施設入居者が通所している。利用者は知的障がい者で平均年齢は40代(40歳～62歳で構成)。
- (2) 就労期間：通年
- (3) 就労時間：10:00～15:00(昼休憩11:15～13:00、その他小休憩あり)
- (4) 利用者の作業内容
 - ①養鶏・・・敷料の搬入・搬出、鶏舎の掃除、餌作り、給餌、集卵作業、卵の拭き取り、卵が割れていないかの確認、製品のこん包等
 - ②しいたけ栽培・・・菌床の浸水、しいたけに付いたおがくずの除去、収穫、製品のこん包等

3 取組の特徴

- (1) 養鶏は鶏舎2棟で約400羽を平飼いし、有精卵を生産している。餌作りでは、材料を計量するバケツに印を付け、利用者が分かりやすいように工夫している。鶏卵は10個入りを定価350円で販売(その他、箱入り等種類あり)。
- (2) しいたけは1,500個の菌床で栽培。ビニールハウスの窓を開閉して温度管理を行っているため、冬期の栽培は行っていない。収穫作業は、収穫適期のしいたけの写真を見本にするなど、利用者が作業しやすい工夫を行っている。1袋300g(定価250円)で販売。
- (3) 鶏卵やしいたけは、根室市内のスーパーや菓子店、カフェに卸している。以前は毎週金曜日に利用者2名と職員が購入者に直接配達することや、中標津町のスーパーや根室産業祭で直接販売することで、購入者から感謝やねぎらいの言葉を直接かけられ、仕事への充実感を得られるなど良い影響があったが、コロナ禍以後は行うことができていない。
- (4) 利用者には焦らずにゆっくりと仕事を覚えてもらい、全員が仕事に携われるように工夫している。月額工賃は6,000円。



4 障がい者就労への考え方

就労の機会を提供するとともに、養鶏、しいたけ栽培などの生産活動を通じて、就労に関する知識や能力向上のために就労訓練を行っている。



5 今後の予定や将来展望

養鶏作業において、利用者の高齢化による体力を必要とする作業の見直しや、穀物等を中心とする飼料価格の高騰により、需要と供給のバランスをみながら卵の価格を検討していく必要があると考えている。